

戦時中の恐怖

玉名市

80代女性2人 体験語る



ロシアのウクライナ侵攻を受け、平和の尊さを再認識してもらおうと、玉名市の80代女性2人が戦争体験を話すトークイベントが13日、同市の工房筒ヶ岳であった。15日の終戦記念日に合わせ、イベントスペースを運営する荒木雄久輝さん(68)が企画。約20人が参加した。

染色工芸家の下川富士子さん(86)は海軍の父らと暮らした人吉海軍航空基地(現錦町)近くなどで3度空襲を経験した。機銃掃射にもさらされ、「(戦闘機の窓越しに見えた)パイロットの笑みを鮮明に覚えている。経験者しか分からない恐怖」「ウクライナ侵攻が始まったときは戦時の緊張がよみがえった」と声を震わせた。画廊オーナーの中川亮子さん(82)は市内の終戦直後の様子を回顧。精神にダメージを負った復員兵の様子や食料難の苦しさなどを語り、「戦争は人間性を壊す」と訴えた。くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークの高谷和生代表(67)が解説を加えた。(隅川俊彦)

トークイベントで戦時や戦後の体験を語る下川富士子さん(左から2人目)と中川亮子さん(同3人目)ら=玉名市